

## 「第5回スポーツ環境会議」議事録

平成27年10月22日（木）午前10:00～正午

新宿区役所6階第4委員会室

### 1 出席者

1	間野 義之（学識経験者）	12	藤原 千里（公募委員）
2	阿部 正幸（区スポーツ推進委員協議会）	13	小柳 俊彦（新宿未来創造財団事務局長）
3	小菅 知三（区レクリエーション協会）	14	山本 秀樹（生涯学習コミュニティ課長）
4	山田 和男（区町会連合会）	15	下杉 正樹（新宿未来創造財団等担当第一課長）
5	辻 彌太郎（区高齢者クラブ連合会）	16	高橋 昌弘（新宿未来創造財団等担当第二課長）
6	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	17	関本 ますみ（障害者福祉課長）
7	大塚 フジエ（区青少年育成委員会）	18	齊藤 正之（高齢者福祉課長）
8	山本 芳裕（区小学校PTA連合会）	19	齋藤 盛太（子育て支援課）
9	大嶋 英二（区中学校PTA協議会）	20	小川 智詠子（健康推進課）
10	三田 圭佑（スポーツ関連事業者）	21	天井 誠（みどり公園課）
11	関口 美緒（公募委員）	22	横溝 宇人（教育指導課長）

#### 欠席者 1名

今泉 清隆（区体育協会）

#### 配付資料

【資料1】スポーツ環境会議設置要綱

【資料2】スポーツ環境会議委員名簿

【資料3】藤原委員からの情報提供「ハンドサッカーの紹介」

【資料4】関口委員からの情報提供「アメリカにおけるスポーツ事情」

【冊子】「新宿区スポーツ環境整備方針」概要版

【チラシ】新宿中央公園フットサル施設OPEN

【チラシ】2015 新宿レクリエーションまつり

### 2 事務局

生涯学習コミュニティ課

### 3 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 生涯学習コミュニティ課長あいさつ

新宿区スポーツ環境整備方針を持続的・継続的な視点を持って着実に推進していくためのスポーツ環境会議も今回で5回目となる。今年2月の第4回スポーツ環境会議以降、皆様方が取り組まれた内容や、今後予定をされている取り組みについてご報告をして頂くとともに、障がい者スポーツの観点からもご意見を承りたい。

#### (3) 委員自己紹介

#### (4) 座長の選出

阿部委員が座長に選出された。

## (5) 情報交換・意見交換（要旨）

### ア 各団体・委員からの報告

・ハンドサッカーは、都内全ての肢体不自由特別支援学校で行われていて、課外活動も盛んである。東京オリンピック・パラリンピックを控え、障がい者スポーツにもスポットが当てられているが、重度障害者には参加できるスポーツがまだまだ少ない。ハンドサッカーはレクリエーション性が高く、重度障害者も参加可能な上、集団スポーツならではの一体感を体験できる。また、高齢者を含め幅広い世代が参加できるのも魅力である。しかし、特別支援学校を卒業したあと、地域で障がい者スポーツに関わることは難しい。障がい者スポーツを継続できる環境づくりが求められている。現在、日本ハンドサッカー協会では中期的な目標として、パラリンピック種目の選手や指導者にハンドサッカーを紹介する取り組みを行っている。これを機に、新宿区内でもハンドサッカーができるような環境の整備について検討してほしい。課題は、ハード面として体育館のバリアフリー化が進んでいないこと、ソフト面として競技人口に対し、指導者が少ないことである。

・新宿区のスポーツ人口の裾野を広げるため、2015新宿レクリエーションまつりを行う。

・町会・自治会の問題は、加入者数が伸び悩んでいることである。コミュニティスポーツ大会のように、地域のつながりのきっかけになるようなことが、スポーツでできないかと考えている。若い方から高齢者までが一緒に楽しめ、地域コミュニティが図れるようなスポーツを探していきたい。

・高齢者クラブも、町会・自治会と同じく会員数の減少が問題である。多いときには1万人いた会員が、現在では6千人台にまで減っている。区の統計では、高齢者クラブの会員として活動している方は長生きしているというデータもあるため、会員数増に向けて皆様のお力添えをお願いしたい。

・日本サッカー協会は、障がいのあるなしにかかわらず、誰もが、いつでも、どこでもサッカーができる環境を提供したいという趣旨の「JFAグラスルーツ宣言」を行っている。サッカーを通して、人と人とのつながりを持てるようにしていくという取り組みである。日本サッカー協会は各都道府県、市区町村のサッカー協会に障がい者サッカーに関する情報を発信し、指導者不足に対するバックアップを行っている。2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、様々な団体が障がい者スポーツを一般の方に知っていただくためのイベントを行っている。例えば、10月には、音楽やスポーツなど様々な要素を入れたというイベントが都内で行われた。障害者の方であっても、障がい者スポーツの情報を知らないことはたくさんある。まずは、「知る場」を提供することが大切である。

・青少年育成委員会では、少年サッカー連盟や軟式野球連盟の協力で四谷、戸塚、落合地区においてスポーツ大会を開催している。また、小学校を卒業した生徒が審判として手伝うなど、支え合いながら活動を行っている。

・年に2回小学校のPTAを対象としたバレーボール大会・卓球大会を行っている。今年は初めて神宮外苑の軟式野球場を借り、日頃参加の少ない父親たちによるソフトボール大会を行った。大変

好評だったため、今後も継続して行っていきたい。スポーツの楽しさを、保護者を通じて子どもたちに伝えていきたい。

- ・学校の部活動を通して、一生涯続けていけるスポーツに出会えるような活動に取り組んでもらいたい。

- ・日本では、思春期になると運動量が激的に減少する。小学校から高校までは体育の授業があるが、大学に入ると運動をしない学生が多い。また、日本人は、スポーツをやる上での手続きを面倒に感じ、皆で集まることに対して構える傾向がある。それに対しアメリカでは、大学やオフィスなど身近なところに運動器具があり、エクササイズをしながら会議をするなど運動に対する抵抗が少ない。スポーツを身近に感じる文化が浸透している。

- ・スポーツ推進委員の活動として、区民の方がスポーツを身近に感じてもらえるように特別出張所単位でコミュニティスポーツ地区大会、その延長線上に中央大会を開催している。また、スポーツ推進委員協議会では、スポレクにおいて体力測定を実施している。スポーツ推進委員の紹介リーフレットも発行しているので目を通していただきたい。スポーツを実施するだけでなく、地域スポーツの振興を通じて、人と人、地域と地域の交流を広げ、地域コミュニティの発展も視野に入れて活動をしている。地域における人間関係の希薄化の解消に、少しでも貢献できればと思う。

- ・2019年にラグビーワールドカップが開催予定である。会場を東京スタジアムとする予定があり、ラグビー気運が東京にも来る。そして、2020年には東京オリンピック・パラリンピック、2021年には関西マスターズ・ワールドゲームズ大会が開催される。この3年間をゴールドスポーツイヤーズと称しているが、区民の方に、どのようにスポーツをしてもらい、継続してもらえるかを考える絶好のチャンスである。新国立競技場を抱えている新宿区だからこそ、グローバルな視点でスポーツ環境について考えていただきたい。ロンドンオリンピック・パラリンピックが終わって3年経つが、ナショナルスタジアムの工事は未だ継続中であり、負の遺産になりつつある。どこの国でもナショナルスタジアムはうまくいってない。新国立競技場もオリンピックが終わった後、最も身近な新宿区の間がどのように活用していくのか考えていかないと、負の遺産になりかねない。ロンドンオリンピックで成功した点は、ボランティアである。彼らはゲームズメーカーと呼ばれ、8万人が活動したが、そのうち4割がボランティア未経験だった。しかし、オリンピックが終わった今日でもボランティア活動を続けている。新宿区でも、人々が支え合いスポーツを行っていくためには、区民をどう巻き込んでいくのかという視点を持つことが大切である。

- ・新宿スポーツセンターとしては、スポーツ人口の裾野を広げるためにイベントを実施してきた。昨年度はオリンピック出場者を招いた教室を行った。また、スポーツにはフィットネスも含まれると考え、気軽にフィットネスに通っていただくために、指導者の質の向上や誰がいつ来ても参加できるような教室の充実といった運動の間口を広げる活動をしてきた。トレーニングルームの利用者数は月に約8千人に達し、過去最高の人数を記録した。今後は、子どもが気軽に参加できるような教室を考えたい。

## イ 各課での取り組みについて

### ・生涯学習コミュニティ課

スポーツ環境整備方針に記載の「ライフステージ等に応じたスポーツを楽しめる場や機会の創出」として、子どもたちが運動できる機会を提供する「新宿スポーツ環境推進プロジェクト」と称した事業を行っている。また、パラリンピックの正式種目でもあるボッチャの普及を始めた。今年度、スポレク2015で実施したところ、参加人数が300人を超えた。障がい者スポーツはまずは競技を知ってもらう、体験してもらうところから始めることが大切である。また、来年度以降は成人・高齢者が楽しめるスポーツの普及に取り組んでいきたい。

### ・新宿未来創造財団

区内の公共スポーツ施設について、新宿スポーツセンターは個人利用を中心に開放している。元気館は高齢者を中心に、新宿コスミックスポーツセンター、大久保スポーツプラザ等のスポーツ施設では団体利用を中心に施設の利用促進を図っている。学校施設の開放を含めた各地域における施設の貸出しや、そこで活動できるような団体育成を行っている。区の方針に沿って、東京オリンピック・パラリンピック気運醸成、障がい者スポーツの推進にも力をいれて活動していきたい。

障がい者スポーツについては、障害者を対象としたハンディキャップ水泳などの教室を行っているほか、東京ベルディや東京ヤクルトスワローズの協力を得て、障害者を招待し、スポーツに触れる機会をつくっている。また、今年度から新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンは、知的障害者が参加できる日本IDハーフマラソンも合わせて開催する。今後はさらに、障がい者スポーツの支援拡充をしていきたい。

### ・障害者福祉課

障害者福祉活動事業助成を行っており、障害者の自立のためや社会活動を目的に事業を行っている団体に対して、助成金を交付している。交付している17団体の内、スポーツ事業を行っている団体は、障害者ダーツ、障害者スポーツ吹き矢、ユニバーサル駅伝、ブラインドサッカーの4つである。また、区立障害者福祉センターでは、いきいき体操などの体操教室を行いスポーツの普及に努めている。

### ・高齢者福祉課

高齢者相互の交流の場とともに、介護予防のための健康増進の拠点となるシニア活動館4館、地域交流館15館、計19施設を運営している。

平成25年度から高齢者が自身の体力を正しく認識するため、体力測定を実施している。また、地域で介護予防の活動をしている団体にインストラクターを派遣し、筋力向上やバランストレーニングなどの実技を出張指導するおたっしゅ運動出前講座を実施しており、今年度は、200回程度の開催を予定している。

### ・子育て支援課

スポーツに限ったことではないが、青少年育成委員等の協力を得ながら、子育て支援、コミュニティの醸成、リーダーの育成等のイベントを推進していきたい。

### ・健康推進課

元気館を運営しており、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が気軽に参加できるようなプログラムを設けている。また、いつでも気軽に参加できるウォーキング行事として「いきいきウォーク新宿」を新宿区ウォーキング協会と協力して企画し、健康増進を推進している。

### ・みどり公園課

スポーツ環境を整備する上で、公園は大きな役割を担っている。今年3月末に新宿中央公園にフットサルコートを整備した。一度団体登録すればインターネットでの予約も可能となっている。平日の夜の時間帯は予約がほとんど埋まっており、土日の稼働率も7～8割と好評である。今後は、平日の日中の利用率を上げるための仕組みを検討していく。

### ・教育指導課

区内の小中学生の体力向上や運動に親しむための取り組みとして、「スポーツギネス新宿」を行っている。小学校では、休み時間を使ってリフティングや縄跳びの記録を計測する活動を全校で行っている。記録は各校で集計し、優秀者を表彰する取り組みである。中学校では、体力向上が大きな課題であるため、今後ダブルダッチという縄跳び競技を中学生版スポーツギネス新宿の種目として実施していきたい。また、オリンピック・パラリンピックの気運を高めることや障害者理解教育の取り組みとして、ブラインドサッカーの体験活動を進めている。本年度は、小学校・中学校合わせて10校を対象にブラインドサッカーの選手が学校に出向き、体験学習を行っている。来年度以降この活動を拡大し、最終的には全小学校・中学校・特別支援学校で体験できるようにするとともに、ゴールボールや車いすバスケットボールも実施できるように進めていきたい。

区内ではオリンピック・パラリンピック教育推進校を8校指定しており、アスリートとの交流を図っている。

## (6) 障がい者スポーツについて

・障がい者スポーツについては、まず障がい者スポーツを知ってもらうことが大切である。知ってもらうことによって障がい者スポーツを支援しようとする人も増えてくる。体験の場としてボッチャを実施しており、来年度からゴールボールを追加したいと考えている。周囲の自治体や東京都と連携しながら普及していきたい。また、高齢者のスポーツとしては、福祉部や健康部と協力しながら健康寿命を延ばせるような、軽い運動の取り組みから始めていきたい。

・障害者と健常者が一緒になって楽しめるニュースポーツの開発を昨年度から行っている。形になれば、なるべく早く報告したい。

- ・健常者の成人で週1回以上のスポーツ実施率は40.4%であるが、障害者の成人におけるスポーツ実施率は18.2%と健常者の半分以下である。活動場所や人材、情報等の課題をきちんと整理していかなければ、障がい者スポーツは思うように推進しない。障がい者スポーツを体験できる場が少なすぎる上に、観戦者や応援者も少ない。課題を見つけて解決のために議論していかなければならない。

#### (7) その他 意見交換

- ・放課後子どもひろばは、19校で実施しており、学びと育成をテーマとして子どもたちが安心して過ごせる場の提供を行っている。スポーツに関して言えば、輪なげ教室を行っており、さらに今後は6校において、スポーツ推進委員の協力を得ながらボッチャ体験コーナーを実施していく予定である。

- ・総合型スポーツクラブは若松地区に1つあるが、他の地域では設立まで進んでいないのが現状である。

- ・障がいのある人、ない人との交流事業については、財団で早急に委員会を立ち上げて、交流事業を実施する予定である。

- ・スポーツ庁が設置され、今後世界三大スポーツを日本で迎える中、新宿区の取り組みはまだ弱い。もっとグローバルな目で議論を進めていくべきだ。新宿区町会連合会をはじめ、スポーツ環境整備方針を各団体にもっと浸透させていただきたい。

- ・スポーツ環境整備方針は、地域の方に広く知ってもらうためにも地区協議会での説明も必要ではないだろうか。

- ・総合型スポーツクラブに関しては、もっと意識を持って取り組んでいく必要があるのではないかと。

- ・「障がい者スポーツ」という名称は、あえて普通のスポーツと分離している感じがするため、名称を考えたほうが良い。学校でも、障がい者スポーツという言葉を使わず広めていけばよいのではないかと。大都市新宿として、もっと刺激的で、新宿だからでこそできるような企画を考えてほしい。多様性に対応できる新宿の特徴を生かし、多文化共生を視野に入れた事業展開をしてもらいたい。今後は、海外からの観光客を巻き込んだ都心型・ストリート型のスポーツができる、あこがれのまちにしていくためにはどう環境を整えていくのかを考えるべきだ。

#### 4 平成27年度スポーツ環境会議について

次回第6回スポーツ環境会議は、日程が決定次第お知らせする。